

拠出を大きく下回る給付額 一件落着に程遠い年金改革

(週刊ダイヤモンド「データフォーカス」欄、2005年12月3日号)

一橋大学教授 高山憲之

先日、共済年金のバランスシートが公開された。昨年の年金改正でバランスシートがどうなったかを示すものである。

図1のグラフは国家公務員共済年金と地方公務員共済年金を合算した2005年3月末時点のバランスシート(単位は兆円)。

過去拠出対応部分と将来拠出対応部分を合算すると、1000億円の資産超過である。保険料を段階的に引き上げ、ピーク時の保険料を18.8%で固定すれば、傷んでいたバランスシートを完全に修復できるというのである。

バランスシートの修復は、過去拠出対応部分の債務超過を、将来拠出対応部分の資産超過で埋めあわせる形で行われる。過去拠出対応部分は昨年の改正後においても100兆円弱の債務超過となっており、この巨額の債務超過をどうやって圧縮し、埋めあわせるかが年金改正のさいに大問題となった。

この問題に対して政府が昨年講じた対策は、保険料の引き上げ、国庫負担の拡大(基礎年金の3分の1から2分の1へ)、そして給付の抑制(いわゆるマクロ経済スライドの導入)の3つである。これら3つの対策によって、右の大問題は克服されたというのが政府と与党の見解にほかならない。

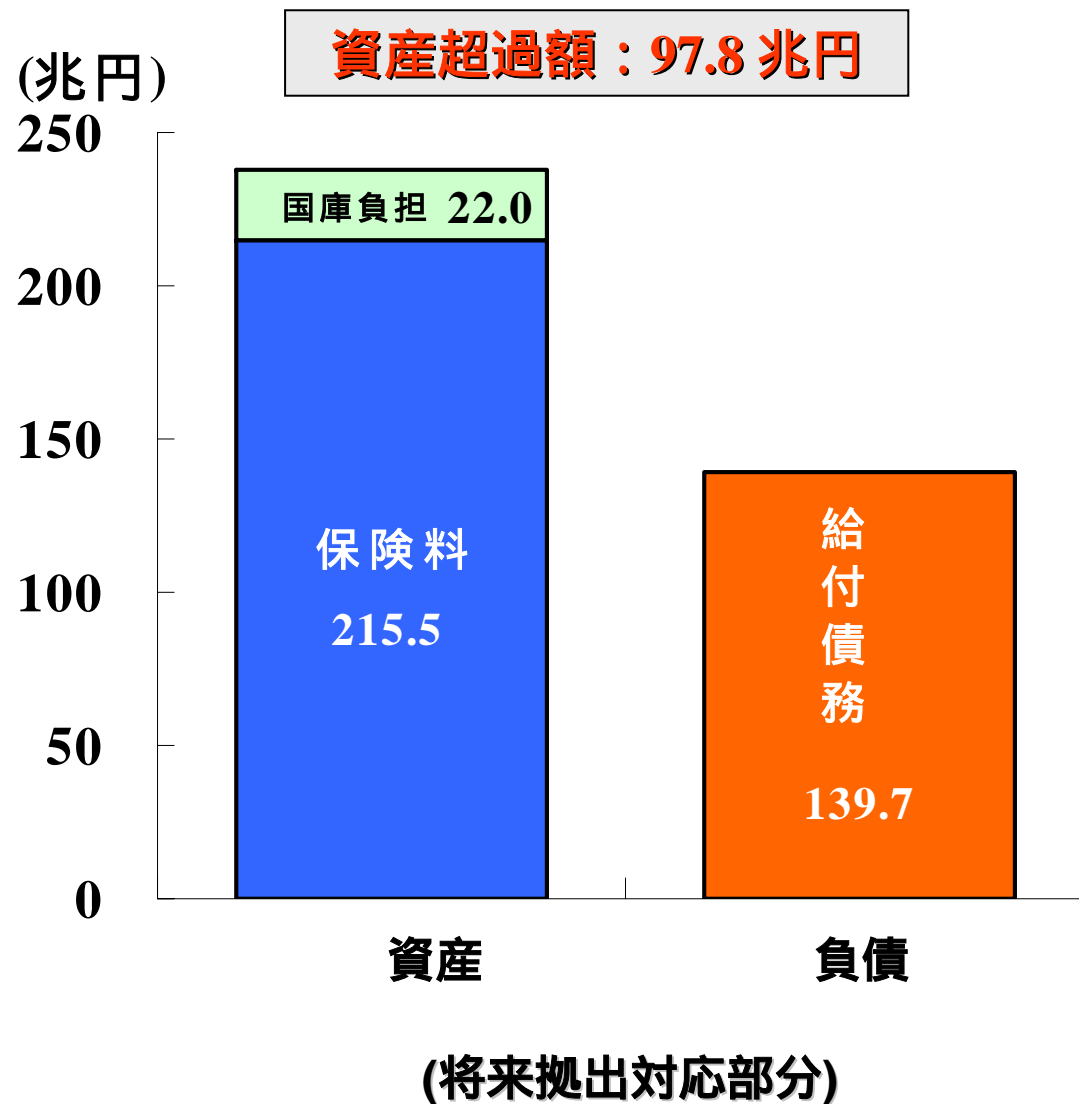
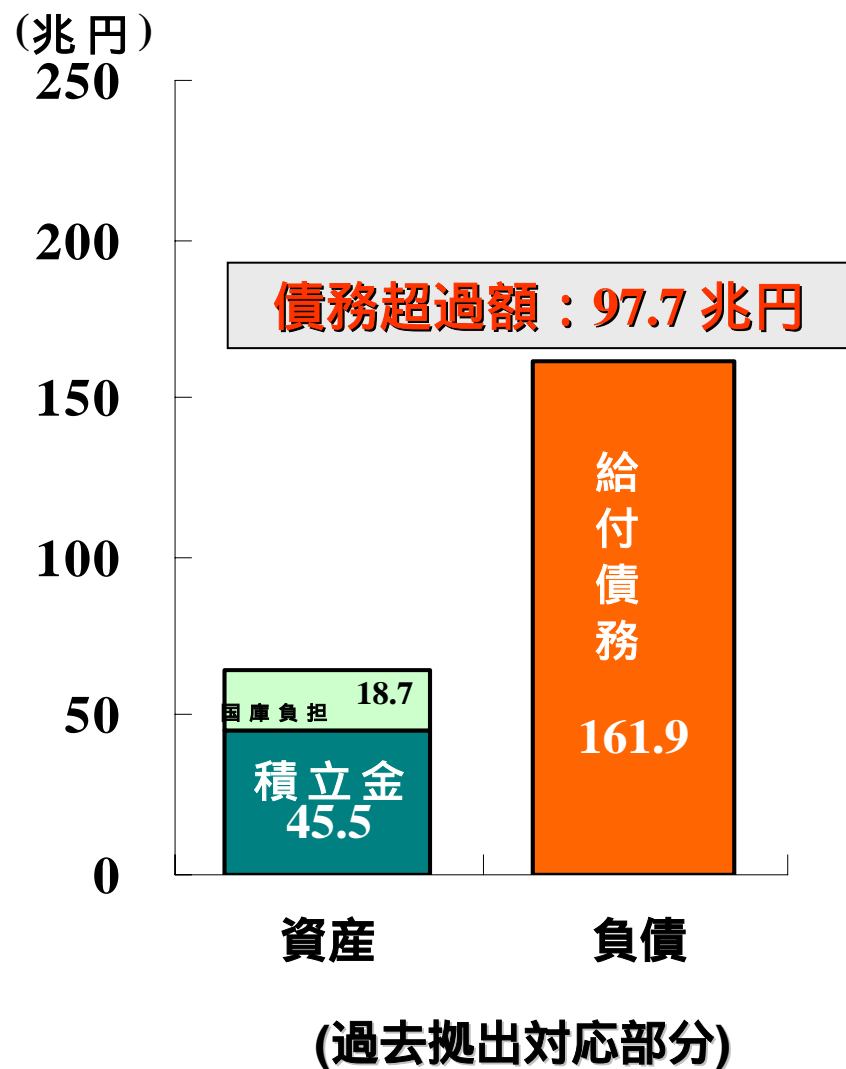
なお図2のグラフは私学共済年金のバランスシートである。金額の大きさに違いはあるものの、その質的内容は公務員共済年金のそれと基本的に変わりがない。また厚生年金や国民年金のバランスシートについても基本的に同様である(詳細は筆者のホームページ

<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~takayama/> を参照されたい)。

図1の公務員共済年金に話を戻そう。その右側には将来拠出対応部分のバランスシートが示されており、100兆円弱の巨額の資産超過となっている。ただ、中身をよくみると、保険料(将来負担分の一括払換算値)216兆円に対応する年金給付(一時金換算値)は140兆円であり、拠出分の65%弱にすぎない。

若者にとって、保険料負担は受けとり予想の給付額を大きく上回っている。このような拠出と給付の関係にある公的年金を若者が支え続けてくれるのか。公的年金の問題は昨年の改正をもって一件落着とは、なかなかいかないようである。

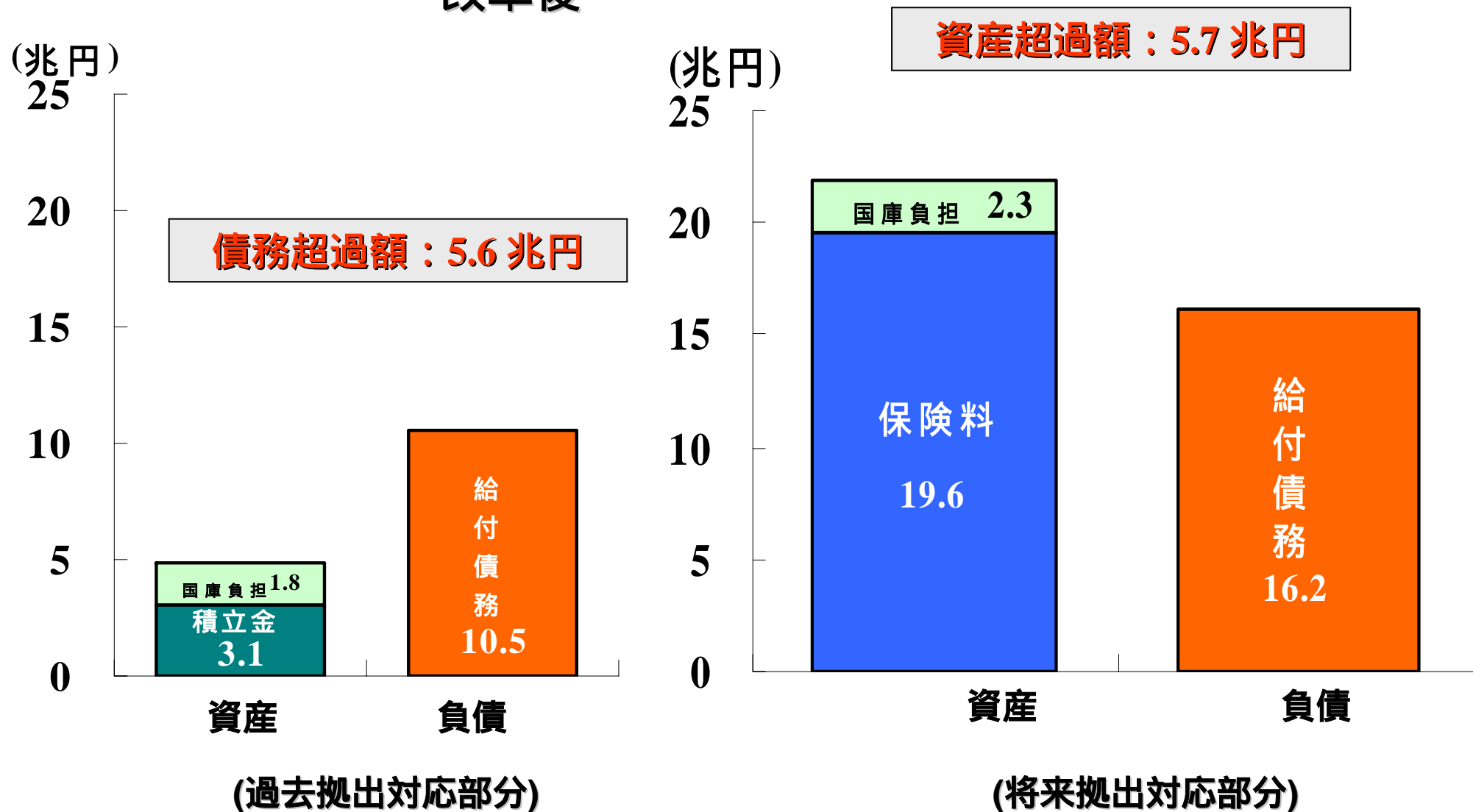
図1 公務員共済年金のバランスシート：
改革後 (2005年3月末時点)



(注) 賃金上昇率2.1%、物価上昇率1.0%、割引率3.2%、保険料18.8%まで引き上げ。
(出所) 『平成16年財政再計算結果』(国共済・地共済合算分)

図2 私学共済年金のバランスシート: 改革後

(2005年3月末時点)



(注) 賃金上昇率2.1%、物価上昇率1.0%、割引率3.2%、保険料18.5%まで引き上げ。
 (出所) 『平成16年財政再計算結果』